TAKE FREE

MA・SO・BO通信

2020 9▶10

［寄稿］

子どものための文化施設の在り方～心豊かな街を目指して

札幌市こどもの劇場やまびこ座 館長　矢吹　英孝

誰がこのような世界を想像しただろうか。

新型コロナウィルスの世界的大流行により、これまでの常識が一気に崩れ、世界中がある意味大きなパニック状態に陥ったと言っても過言ではありません。これまでのライフスタイルや仕事のやり方、そして我々の考え方や生き方までをも変えてしまいました。とは言え、未だ現在進行形の中においていつ終息を迎え、アフターコロナの世界がどのようになっていくものか、未だ想像することができません。しかしながらこれからの未来を生き抜く中で感染症とどのように向き合っていくべきかを突き付けられたことは間違いありません。私たち大人が未来を担う子どもたちのためにも想像力を持った工夫や知恵が今まさに必要であると考えます。

さて、中島公園の中にある札幌市中島児童会館、そして併設する札幌市こども人形劇場こぐま座の両施設は、いずれも日本初の公立の児童会館、人形劇専門劇場としてこの札幌の地に建設されました。子どものための文化拠点として長年に渡り、子どもたちへの文化発信、様々な文化体験機会の創出、子どもたちを取り巻く社会環境づくり、そして何より人材育成機能を備えた拠点として子どもから大人まで、文化の担い手の創造を行ってきました。この役割は今も変わることはなく、そして次世代に向けた取り組みとしてこれからも続いていくことでしょう。

その中島公園の歴史は非常に古く、1871年（明治4年）の鈴木元右衛門堀の完成が始まりとされています。現在の菖蒲池に貯木場と水門が設けられ、開拓使の札幌経営策の一環として活躍したと言われています。その後、中島公園競馬場や中島遊園地、スケート場や子供の国などが建設され、1918年（大正7年）には開道五十年記念として北海道博覧会が開催され、当時の人口95,000人の札幌に140万人もの人々が訪れたと言われています。札幌の経済、観光、文化振興の拠点として中島公園の存在は大きな価値を持っていたと言えるではないでしょうか。しかしながら、第二次世界大戦の勃発により社会情勢も変わり、中島公園で開催予定であった冬季五輪が幻に終わり、さっぽろ雪まつりの先駆けのひとつであった氷上カーニバルや各種集会の中止が余儀なくされたのです。中島児童会館が開館したのは、その戦後まもない1949年（昭和24年7月3日）です。食糧難や生活物資の不足など困難な時期において子どものための文化施設が誕生したことは非常に画期的なことであり、札幌という街の子どもたちへの想いや覚悟を感じずにはいられません。建物は米軍払い下げのかまぼこ兵舎四棟。（資料室「MA・SO・BO」にジオラマ模型が展示されています）決して建物としては、正直言って良い環境とはいえるものではなかったと思います。しかし、当時の記録などを見る限り、札幌の子どもたちは、大きな夢や希望を持って児童会館に集まってきたことが伺えます。100人、200人は当たり前であり、多い時には1日400人ほどの子どもたちが全市から集まってきました。そこには、子どもたちの熱意に負けない大人たちの存在も大きかったと言えます。人形劇や口演童話、児童劇、幻燈会、紙芝居、音楽など、多くの児童文化グループが「日曜子供会」において披露しました。児童文化グループにとっては、子どもたちと一緒に自分たちも楽しみ、児童会館が大きな活動の場でもあったのです。主に、小学校教諭や専門人形劇団、北海道第一師範学校学生、学生赤十字奉仕団、そしてボランティア高校生など、若者たちが多く活躍したことも特徴として挙げられます。このような下地があったからこそ、1976年（昭和51年）の人形劇場こぐま座の誕生、続いて1988年（昭和63年）のこどもの劇場やまびこ座誕生にもつながっていくのです。中島児童会館、こぐま座、やまびこ座の3施設がそれぞれの役割を通して、札幌の子ども文化の発信拠点であることは間違いありません。中島児童会館が71年、こぐま座が44年、そしてやまびこ座が32年という時間とともに時代の流れや変化の中で、様々なやり方や手法を変え、時代のニーズに応える形で運営してきました。しかし、「子どもたちのために」という想いはこれからも変わることなく続いていきます。数十年後を見据え、子どもたちのために今何ができるのか、何をすべきかを見極めることこそが、我々に課せられている使命でもあります。

文化は人の営みの中で必要不可欠なものということは、このコロナ禍においてある意味大きく示されたと考えています。もちろん、あらゆる文化イベントや劇場公演、コンサートなどが中止に追いやられ、各劇場や劇団、文化団体などは窮状に陥っていることは大きな問題です。それに加え、市民の文化芸術に触れる機会の激減は、心の拠りどころが失われ、ストレスや苛立ち、誹謗中傷が蔓延し、ギスギスした世の中が待っていたのです。想像力が失われていくことの危機感は計り知れません。しかしながら、ステイホームが日常になった時、気持ちを救ってくれたのは、やはり身近にあった音楽や本、絵画、モノ創り、演劇や人形劇などの文化芸術でした。文化は、特定の人間だけに与えられた特別のものではなく、全ての人々に与えられた価値なのです。ましてや子どもたちにとっては自分たちの可能性や視野を広げることにもつながります。いつもそばにあり、想像力や表現力、創造力が培われることが文化のチカラです。我々文化施設の役割は、いつでもどこででも当たり前のように文化が隣にある「心豊かな街」を創りあげていくことなのです。

略歴

1967年生まれ　福島県福島市出身
北海道教育大学函館分校卒業
学生時代、紅い鳥児童文化研究会に所属
現在、札幌市こどもの劇場やまびこ座館長
国際人形劇連盟日本ウニマ会員
さっぽろ人形浄瑠璃芝居あしり座代表
人形劇団野良犬 +Plus⊕代表

MA SO BO って？

MA・SO・BO

2018年にオープンした資料室MA・SO・BOをご存じですか？

中島児童会館とこぐま座の間、とても小さなスペースですが、来るたびに興味の高まりを感じられる場所です。はじめて来ると【A・SO・BOゾーン】のカラフルで良質な木のおもちゃ、季節や「657美術館」と連携した絵本展示などに目をひかれ、お子さんがいる方は特に楽しめることでしょう。その後「馬車でGO」で中島公園をデジタル散歩。懐かしすぎて新しい復刻版のすごろくや紙芝居に惹かれる方もいらっしゃるのではないでしょうか。

さらに【MA・NA・BOゾーン】に足を踏み入れると、中島児童会館とこぐま座が、児童文化の発信拠点として札幌市民から長く愛されてきたことを展示物から感じ取ることができます。天井近くまで3面にぎっしりと詰まっている本棚には、子どもに関わる仕事をしている方や学生、子育て中の方、そして人形劇や演劇を愛する方にとって、手に取りたくなる本の数々が。椅子に座って、じっくりと読み始めると時が経つのを忘れてしまいそうになります。

子どものための健全育成施設として両施設が担ってきた大きな役割、そして子どもたちが歩んできた社会背景や文化環境を振り返ることができるこの場所で、歴史を紐解くことで、子どもたちが生き生きと輝ける未来につなげていきたい。

そんな想いがたくさん詰まった「MA・SO・BO」に、ぜひ足を運んでみませんか？

中島児童会館とこぐま座は隣接しており廊下でつながっています。

児童会館と劇場の歴史がわかる学びのスペース「まなぼ」

昔あそびや絵本など楽しい遊びのスペース「あそぼ」

●中島児童会館・こぐま座資料室MA・SO・BO
●札幌市中央区中島公園1-1（中島児童会館・こぐま座内1階）
●入場料：無料
●開館時間 9：00～17：00
●年末年始休
※コロナウイルス感染拡大防止のため休館する場合があります。
●お問い合わせ：中島児童会館（日曜休館）011-511-3397
こぐま座（月曜休館）011-512-6886

MA・SO・BO 本シェルジュ

KONNO MICHIHIRO
今野 道裕 先生
名寄市立大学保健福祉学部
社会保育学科教授

PROFILE

1955年生まれ
高校時代より人形劇活動を始める
小学校教員28年を経て
2006年～市立名寄短期大学教授

北海道人形劇協会理事
芸術と遊び創造協会会員
日本福祉文化学会会員
北海道教育学会会員
北海道芸術教育の会

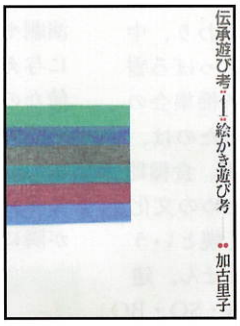
ひとり人形劇団「オホーツク風雲ワクワク団n」として活動中
著作：『作ってあそべる製作ずかん～3・4・5歳児の保育に～』（学研・2013年12月）

本の紹介①『伝承遊び考』（全4巻 加古里子著 小峰書店）

「へのへのもへじ」って1つの形じゃないんです！

やっぱり加古里子さんの本から始めたい。人形劇や学芸会の劇、あるいは日々の読みきかせや授業の資料としても、加古さんの本にどれだけお世話になったことでしょう。みなさんも『だるまちゃんとてんぐちゃん』『からすのぱんやさん』が大好きという人も多いのではないでしょうか。遊びに関する本もいっぱいあります。

でも加古さんは実は科学者。『かわ』『宇宙』『万里の長城』等々、わかりやすく、しかも百科事典のように情報いっぱいの絵本も数えきれません。その科学者で子ども大好きの加古さんのライフワークが「子どもの遊び」研究です。『伝承遊び考』はその集大成。子どもの遊びを日本中から集め、分類し、記録しています。遊びが伝承、伝播していく様を実に丁寧に検証していています。必見！



657美術館からのお知らせ
～657cmのちいさな美術館～

すずきもも絵本原画展

札幌在住のイラストレーター＆絵本作家であるすずきももさんの絵本原画を展示します。

■期間：2020年9月15日（火）～11月15日（日）
■時間：9：00～17：00
■入場料：無料
■会場：札幌市中島児童会館・こぐま座内

パタパタ絵本づくり

～ももさんと一緒に絵本製作をします～

■日時：10月10日（土） ①10：30～12：00
②13：30～15：00
■対象・定員：5歳～高校生（各回10名）
※幼児は保護者同伴
■参加費：300円
■会場：中島児童会館
■申込：9月15日（火）より電話受付開始

編集後記

2018年9月に【資料室MA・SO・BO】がオープンし約2年、ようやく創刊にこぎつけました。ささやかな手づくりの紙面ですが、未来へ続く子どもたちの幸せを願う多くの方々にお伝えしたい、共に考えたい、そして行動したい。そんな想いから、子ども文化に携わる大人たちの様々な寄稿を掲載していきたいと考えています。予測困難な時代だからこそ、文化の力を信じ努力してまいりますので、ご愛読・ご支援をお願いいたします。（柳本）

【お問い合わせ・申し込み】
札幌市中島児童会館 TEL 011-511-3397
札幌市こども人形劇場こぐま座 TEL 011-512-6886
住所：札幌市中央区中島公園1－1
（地下鉄南北線中島公園駅下車3番出口より徒歩1分）

発行／札幌市中島児童会館・札幌市こども人形劇場こぐま座指定管理者／公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会